

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	神奈川工科大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カナガワコウカダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	工学部・情報学部・創造工学部・応用バイオ科学部
	担当教職員名・役職	永谷秀俊・教務課長
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	47
	受入企業等数	28
	受入企業等名	株式会社シミズオクトJFEスチール株式会社東日本製鉄所株式会社きんでん株式会社コスモ株式会社ソニックダイオーエンジニアリング株式会社高砂熱学工業株式会社中日本ハイウェイ・エンジニアリング株式会社富士電機株式会社宇都宮市栃木県庁株式会社ガリレオ株式会社シミズ・ビルライフケア株式会社未来技術研究所神奈川県厚木市役所東光電気工事株式会社株式会社オーディオテクニカ城北機業株式会社アイコムシステック株式会社株式会社アイネス株式会社ハイマックス株式会社パフ神奈川ダイハツ販売株式会社/株式会社ユーコーBEXエヌ・ティ・ティアイティ株式会社株式会社日本トータル・システム株式会社エールライフラインハルト株式会社
	インターンシップの分類	7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学での学習内容が企業や事業所・教育現場などでどのように活用されているか、また働くことの意義を就業体験を通して理解することを学習の目標とする。また、各自の就業体験の成果を卒業までの各自の学習目標を明確化や社会人になるための準備に役立てることを目標とする。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次、3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学修成果として、①社会人としてのマナーやモラル、就業意識、自主性、コミュニケーション能力、業界や企業研究の仕方、履歴書やエントリーシートの表現技法を身につける。②実際に企業に訪問し実習を行うことで、企業人としての考え方や行動の仕方等を直接学び、将来の自らの就業に役立てる素養を身につける。③自らの学びの振り返りを行い、卒業するまでに大学で身につけるべき素養の再確認を行い実践していく。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ期間中に学生と教職員が相互に連絡をとり学生を支援している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習として、学習教育目標の確認、社会人基礎力、社会人として必要な3つの力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を企業での実例、業界や企業の調査と研究の仕方(最新の理工系業界の動向と将来展望)、インターンシップ実習のエントリーの仕方、履歴書やエントリーシートの作成法、社会人としてのマナー・コミュニケーション力、課題解決の仕方とその進め方、グループワークの基本と効果的な討議の方法を学修する。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学修として、企業訪問の報告書の作成と提出、成果発表会の準備(パワーポイント制作、リハーサル等)及び成果発表会での発表。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ実施後、成果発表会を開催し学生が企業の方や教職員の前で学修したことを発表する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間(うちインターンシップ実施期間3~4日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	大学の担当者と企業の方とで事前に打合せを行い、今問題となっている案件を課題として設定し、学生間でグループワークにて解決している。また、導いた結論を発表している。企業の取り組みや内容を知ることができる。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://kw.kait.jp/syllabus/syllabus.asp?wintNendo=2016&wstrGak=2&wstrGkb=10&wstrSzk=1M
問い合わせ先	大学等名	神奈川工科大学
	担当部署名	学生支援本部教務課
	担当者役職名	教務課長
	担当者氏名	永谷 秀俊
	電話番号	046-241-1213
	メールアドレス	kyoumu@kait.jp